

ひきこもり支援について

先日民生都市建設委員会で先進事例である宇部市を行政視察しました。私は令和元年第2回定例会で初めて一般質問でひきこもり支援を取り上げましたが、これまで実態調査、講演会の開催、相談窓口「たけはらまるっと」を設けるなど、市の対応は前進していると感じています。

令和7年第1回定例会でも一般質問をしましたが、次の2点を確認させてください。

- ①「家族支援の一助として家族の交流の場の開催に向けて、地域の支援者を対象にひきこもり状態にある人の家族支援の研修会を3月に開催する予定」とのことでした。家族への支援は大変重要と考えています。現在の状況を可能な範囲で教えてください。
- ②民生委員さん、児童委員さんには実態調査に協力いただくなどしていますが、負担の軽減になるような対策がなされていれば教えてください。

宇部市ではNPO法人「ふらっとコミュニティ」にひきこもり相談窓口業務を委託しています。東広島市では、NPO法人「あなたのいばしょ」と連携して、チャットによる相談受付をするようになりました。竹原市でも今後このような連携を進めるお考えはないでしょうか。

地域おこし協力隊について

竹原市の地域おこし協力隊はどのような活動をされているのでしょうか。

先日「東広島市安芸津町でブドウ農家として就農を目指す隊員を募集している」という新聞記事がありました。特定の活動内容を設定するミッション型の隊員募集を初めて取り入れるとのことでした。

笠岡市では「インターン制度」を設け、ミスマッチを防ぐため募集から着任後の活動まで支援を行うコーディネーターを配置しています。「ミッション型」以外にも「提案型」があり、「障害者グループホームに向けての活動」「婚活サポート事業」「不動産業の経験を生かした空き家の利活用」などの多種多様な提案がされています。また市民に活動を知ってもらうために定期的な公開ミーティングが行なわれています。

竹原発スタートアップ支援事業でも若い人財が交流人口として活動してくれていますが、地域おこし協力隊制度をもっと活用して地域課題の解決につなげるべきだと思いますが、今後の方針をお聞かせください。

余市町との教育の交流促進について

竹原市と北海道余市町とは令和5年10月26日

「これまでの交流により培われた相互理解と親善を深め、文化、教育、芸術、経済など幅広い分野にわたる交流を促進し、ともに発展することを願い、交流都市提携を締結」しており、とくに教育では、竹原小学校と余市町内の小学校とがオンラインで交流してきました。

余市町からは毎年竹原市を訪問してくださる議員がおられますが、先日小中学校の校長先生を含めた教育視察団が初めて竹原市を訪問されました。今後は相互の小中学校で活発な交流が進められるのではないかと期待しています。より深い交流を進めるために修学旅行での相互訪問も可能ではないでしょうか。今後交流をどのように促進されるのか、お考えをお聞かせください。